

# 大杉谷国有林からの手紙

## 51通目～大杉峡谷の山開き～

### 2021年5月

大杉谷の厳しい冬が去り、過ごしやすい季節となった4月の19日に大杉峡谷の山開きが行われました。山開きに先立ち4月12～13日に行われた「大杉谷登山歩道合同パトロール」に参加してきました。(合同パトロールについては、16通目・31通目でも紹介しています)。51通目は趣向を変え登山道の自然美と登山小屋についてお話しします。

#### (1) 大杉谷登山道の自然美

大杉谷は日本三大渓谷に数えられ、豊かな自然を感じることでできる場所となっています。今回は豊かな自然の一部をご紹介します。宮川ダムからの登山口より2～3時間歩いた場所にシシ淵と呼ばれる場所があります。そこは大杉谷登山道の中でも屈指の絶景ポイントとなっており、登山で火照った体を滝と川からの冷たい風が優しく包み込んでくれます。

シシ淵からさらに1時間ほど歩くと平等嶺（びょうどうぐら）と呼ばれる断崖絶壁が突然目の前に現れます。写真1のようにその景観は圧巻の一言です。平等嶺の「嶺」はけわしく切り立った大きな岩という意味があり、この地形には大杉谷の地質に秘密があります。大杉谷は堅い岩と柔らかい岩が混ざった地質からなり、水などによる岩の削れ方に違いがあるため特異で複雑な地形が形成されるようです。

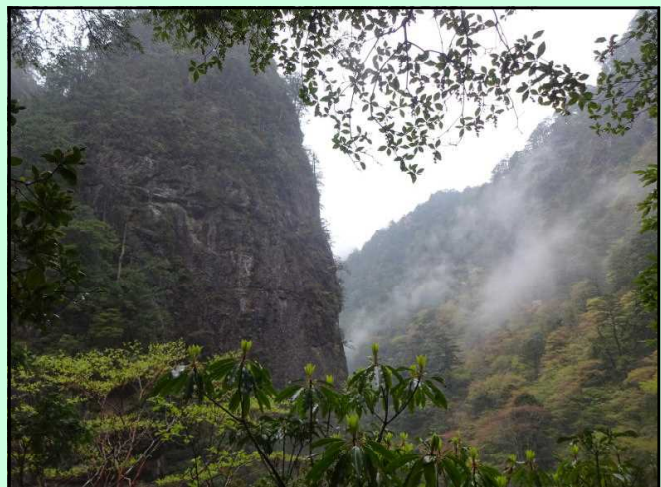


写真1 平等嶺



写真2 トウヒ林

大杉谷登山道を頂上へ向かい、中盤から終盤にさしかかると植生が落葉広葉樹林帯から亜高山帯へと変化していきます。登山者の目を楽しませてくれます。植生は主にブナ、トウヒ等が見られます。亜高山帯の植生を楽しみながら大杉谷登山道の到着点でもある日出ヶ岳に到着すると、天気の良い日は眼下に太平洋の大海原と大自然の深緑を一望することができます。今回はあいにく大雨と霧と強風で美しい景色を見ることはできませんでした。大杉谷は雨の多い地域ですので訪れる際は、防水防寒対策を十分に行い、雄大な大杉谷の自然に触れてみてください。

## (2) 大杉谷の登山小屋

今回で51通目となる大杉谷からの手紙ですが不思議と大杉谷の登山小屋についてはあまり触れられなかったのでここで少しご紹介します。

登山小屋は山を登る人たちの憩いの場となっており、食事やお風呂を提供していただけます。しかし、どのようにして食事やお風呂を私たちに提供されているのでしょうか。その答えは林道から登山小屋まで通じる全長約2kmの架線にあります。架線とは単線のロープウェイを想像していただくとわかりやすいと思います。この架線を使って登山小屋の食料や燃料を週1~3回の頻度で運搬しており、私たち登山客に美味しい食事が提供されているのです。

お風呂についてはどうでしょうか。登山小屋で利用されるすべての水は近くの沢からまかない、お湯を沸かすのは薪とボイラーを使用しています。登山小屋の温かいお風呂は疲れた体に染み渡り、登山中の何物にも代えがたい至福のひとつとなります。

最後に、登山小屋を訪れる登山客を見てみましょう。利用客は開山期の休日にかけて大杉谷の登山を楽しまれる方が多くいる傾向があるようです。また、1日の来訪者は多いときには200人もあるとのこと。これほど多くの方が大杉谷を楽しんでいると聞くと大杉谷が愛されているんだなと感じました。すでに大杉谷は山開きが行われ、これから大杉谷を訪れようかなと思われる方はぜひ登山小屋も登山の楽しみの一つに入れてみてはいかがでしょうか。



写真3 桃の木小屋



写真4 桃の木小屋

## (3) 合同パトロールを終えて

合同パトロールでは、閉山期間に痛んでしまった登山道の整備、落ち葉の掻き出し、吊り橋の点検、遭難者の救助方法の確認等を関係機関とともに行いました。今回は初日から生憎の雨という状況でしたが、三重森林管理署としての立場、登山者としての立場、またその他関係機関の立場から、山を見ることのできる貴重な経験をさせていただきました。今回、経験させていただいたことを大杉谷の管理・経營業務の中で十分発揮していくとともに、これからも合同パトロールを続けていきたいと考えています。

## 2021年5月

編集：三重森林管理署 尾鷲治山事業所 係員  
発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官